

平成26年度第1回 北九州市上下水道事業検討会 会議要旨

【日 時】 平成26年10月7日（火） 10:00～11:45

【場 所】 上下水道局大会議室（小倉北区役所庁舎東棟5階）

【構 成 員】 小畑構成員、菊池構成員、佐賀構成員、佐藤構成員、永松構成員、
福地構成員、松明構成員、宮田構成員、柳井構成員〔50音順〕

【出席職員】 上下水道局長、海外事業下水道担当理事、総務経営部長、海外・広域事業部長、
水道部長、浄水担当部長、下水道部長、下水道施設担当部長、総務課長、
経営企画課長、下水道経営担当課長、営業課長、海外事業課長、広域事業課長、
計画課長、設計課長、配水管理課長、浄水課長、水質試験所長、下水道計画課長
アセットマネジメント担当課長、下水道整備課長、施設課長、水質管理課長
経営企画課（事務局）

《議 題》

- 1 平成25年度決算について
 - ① 上水道事業会計
 - ② 下水道事業会計
- 2 中期経営計画における平成25年度事業進捗管理について
 - ① 上水道事業
 - ② 下水道事業
- 3 主な事業の取組状況について
 - ① 営業業務の見直し
 - ② 浸水対策事業

◇議題1 平成25年度決算について事務局から説明

◆議題1 平成25年度決算に関する質疑応答

（構成員）

下水道事業でお尋ねします。営業費用の内訳で、前年比で人件費が1億2700万円のマイナス、維持管理費が1億400万円のプラスとなって、ほとんどここで相殺されると思います。それでもトータル2億2千万円程度の費用が増えているのは、何か他の要因で経費が増えていると思いますが、営業費用はある意味ランニングコストで固定的に係る部分の費用なので、収入が落ちながら固定費がこれだけ増えていくと経営的にはかなり厳しいのではないかと思うのがまず1点。

それから、参考資料の表中で使用料収入が特に計画に対して実績が随分落ち込んでいるということと、収支そのものが予算の段階でマイナスとなっているということです。普通の民間企業であれば、プラスになるように計画を作るのが普通ですが、今後どのようにお考えなのか見解をお願いします。

(事務局)

まず、営業費用の部分で、トータルで2億2200万円増加しているということで、この部分の増加要因は固定資産の除却損などが4億円ほど、昨年度より増えています。様々な維持管理経費の削減に努めていますが、固定資産を除却すれば一気に除却損が発生します。よって、今回、営業費用全体を引き上げた要因は固定資産の除却損であります。

次に、下水道使用料の実績が計画より減少している厳しい経営の中、なぜ、平成26年度予算を赤字で計上しているかのご質問ですが、確かに平成26年度予算においても、固定資産除却損などがプラスになっています。また、今回、特に4ページの真ん中の収益的収支の予算ですが、16億7千万円の赤字を計上しています。このうち、平成26年度から会計基準の見直しがありまして、退職給与引当金などを一括して特別損失に計上するような会計処理を行いました。そういった部分もありまして、赤字幅が大きくなったというものです。

ただ、予算を組む考え方の1つとして、収益的収支の均衡が一番望ましいとは考えていますが、現金支出を伴わない減価償却費等が資産の増加によって毎年増えていきます。また、維持管理費の削減に努めているものの、最近では電力料金の上昇など、非常に厳しい状況です。さらに、平成26年度は消費税が8%となりましたので、費用も増加しています。

私どもといたしましては、収益的収支も大切ではありますが、まず、資金収支が黒字で推移することが一番大切であるというふうに考えています。

3ページの資金収支の累積は、計画では平成26年度末は11億9100万円と見込んでいたところ、決算では29億7100万円となり、計画を大幅に上回っています。私どもとしては、まずは資金収支の面で黒字を確保していきたいと考えています。

(構成員)

ご説明いただいた内容が、企業会計の視点で見ると不思議な感じがします。

特に、営業費用と営業外費用等に区分されていますが、普通はもう一つ下に特別損失という欄があって、固定資産の除却や過年度の引当金の積立てなどは、この欄に計上されます。営業費用の欄には計上しないものです。営業収益や営業費用は、料金収入等を計上し、それに必要となる経費などを計上するのが普通ですが、会計上そうなっているのならば仕方ないと思います。

それから、ご説明の中で資金収支をプラスにすることを第一目標にしているということですが、中長期の視点で見ると、最終的には収益収支と資金収支というのはイコールになってきますので、単年度で黒字になっていても、最終的にはバランスが取れなくなってくるということだけは念頭においてください。

(構成員)

上下水道局となっても、上水、下水と別々の事業、別々の会計となっていますが、将来的には統合されるのでしょうか。

(事務局)

地方公営企業法で、各事業は独立して会計をすることとなっています。また、下水道事業は法定事業ではありませんが、極力、企業会計に準じることとなっています。

組織が統合されたので、会計も統合する方が分かりやすいかもしれませんが、法律上同一の会計とすることはできません。

(構成員)

これから降雨量も増え、下水道事業も厳しい経営状況になると思います。トータルで考えても良いのではないかと思います。法律上そういうことであれば仕方ありませんね。

◇議題2 中期経営計画における平成25年度事業進捗管理について事務局から説明

◆議題2 中期経営計画における平成25年度事業進捗管理に関する質疑応答

(構成員)

平成25年度に上下水道モニターをさせて頂いたのですが、施設見学の際に水質など色々お話を伺いまして、遠賀川水域や井手浦浄水場水域などの何種類かの水の飲み比べなどをさせて頂きました。その時ははっきり味の違いは分からず、何となく違うのかなという感じでしたが、水質に違いがある話を伺っていました。

私事ですが、趣味で草木染をやっています、小倉南区で草木染したものを小倉北区の自宅に持ち帰って、水道の水で洗った時に色が落ちました。色が落ちるのは分かっていたのですが、その色落ちがあまりにも劇的だったもので、水質が違うということを感じました。

草木染の先生に伺っても、水質で染まり具合、出来上がりの色が全く異なるというお話を聞いて、水質の差を直接目で見て実感したので質問させていただきました。小倉南区と小倉北区で水質の違いがあるようですが、少しでも差がなくなって双方ともに美味しいお水を飲めたらいいなと思いました。

それからもう一点、10年くらい前になりますが、私が北九州市に引っ越してきた時のことです。夏場でしたが、水道の水を出した時に、もの凄く白濁していたのでびっくりして水道局に電話をしました。そしたら、「しばらくして水が透明になったら飲めます」という返答でした。ある意味、色の凄さにびっくりしたのですが、安心・安全に飲める水作りをお願いしたいと思います。

(事務局)

草木染の色落ちに違いがあるということについてお答えさせていただきます。2ヶ所の蛇口を利用されたということで、何が影響したのか検討してみました。一つ考えられるのが、浄水場を出てすぐの水と遠くの水では水質に違いがあると思われます。水道水は、法律に基づいて蛇口での残留塩素濃度を0.1以上確保することが定められています。遠くに行けば行くほど時間が経って残留塩素の濃度が低下するという傾向があります。

よって、水道水の残留塩素の濃度の差による影響があったのではないかと考えられます。

(事務局)

水道水の白濁の件ですが、井手浦浄水場の供給エリアであれば、水源は貯水池となります。貯水池から水を取水する場合、池の底に近い方から取水しますので水温がかなり低いです。主に春先から夏場にかけて発生する現象ですが、低い水温の水が一気に地表面まで運ばれますので、水の中に溶け込んでいた酸素が、暖かくなることによって外に出ようとする現象が起こります。そういう状態で蛇口をひねりますと、急に圧力がかかって酸素が出てくるわけですが、それは空気です。ということで水道局から返答があったように、しばらくすると水の中の空気が抜けて透明になるわけです。白濁は空気によるものなので、安心してご利用ください。

(事務局)

一つ補足させていただきます。小倉南区と小倉北区の話がありましたが、基本的に小倉南区は全て井手浦浄水場の供給エリアとなっています。小倉北区については、油木ダムやます淵ダムの貯水量を有効に活用するため水の供給先を変更しています。場所や時によっては、遠賀川を水源とした水が供給される場合と井手浦浄水場の水が供給される場合がありますので、供給元の水源水質の違いが色落ちの差の要因の1つかもしれません。

市の西側の水はご存知のとおり遠賀川の水を水源としています。水質が悪いとお叱りを受けることもありますが、高度処理(BCF)や活性炭を入れたりして水質の改善に努めています。

飲み水としては、法律の水質基準に基づく51項目の検査をしていますし、本市では合計200項目の検査をしていますので、飲み水としては何も問題ないと考えています。

(構成員)

そういった水源の変更が定期的に行われるのであれば、広報といいますかお知らせするというのも一

つの手段だと思えます。そうでないと、やはり水質が悪いのだと思込んでしまいます。
季節等によって水質の変動があるということも分かりました。

(構成員)

水道事業の出前講演について質問です。各種団体で講演されているみたいですが、具体的にどのような団体にどのような内容を講演されているのかということと、今後の取り組みとして、関心の高いテーマの設定やPR方法を検討するとありますが、この関心の高いテーマについてどのように把握されるのか説明をお願いします。

(事務局)

平成25年度の実績ですが、マンションの管理組合、校区の社会福祉協議会や年長者福祉大学校（周望学舎）などの団体に前講演を行いました。テーマとしては、直結式の給水や水道料金の話、アセットマネジメントあるいは水道の文化などです。関心の高いテーマをどのように把握するかという質問ですが、今月の19日に穴生浄水場で浄水場フェスティバルを開催することになっています。多数の来場者を見込んでおり、その来場者に聞き取りなどして関心がある項目を把握したいと考えています。

また、PRについてですが、上下水道モニターや年1回の水わくわくフェスタというイベントを開催しています。これらのイベントに3000名くらいの来場があります。そういった機会にチラシの配布などを行い、特に上下水道に関心のある方々にPRし、できるだけ出前講演の件数を増やしていきたいと考えています。これからも地道ではありますが、PRを続けていきたいと思っています。

(構成員)

出前講演で、計画が60回で実績10回ということですが、これは今後の方向性は「B」でよろしいのでしょうか。正直なところ「C」でも良いのではと思います。

(事務局)

年に60回というと、おそらく週に1回くらいのペースになると思います。また、幹部職員が講演しますので、議会があつたり予算時期があつたりと色々な隙間をぬって行くこととなります。正直60回という数字自体は、かなり厳しい目標であると思いますが、一度は目標値として設定したわけですから、目標値に少しでも近づけられるよう改善や工夫により対応していきたいと考えています。

(構成員)

決算の話になりますが、特に、下水道は水道に比べ企業債残高が多く、今後も企業債の償還が大変になるのではないかと思います。

名古屋市上下水道局の話になりますが、名古屋市でも出前講演を行っています。それ以外に入社3、4年目の若手の職員が、未来のお客さまを育てるということを目的に小学校で授業をしています。そこで、上下水道事業について様々なPRをしていて、年間80校くらい実施しています。参考までに紹介させていただきます。

(構成員)

出前講演60回に対して10回、6分の1の実績というのはいったいどのようなことなのでしょう。正直に言えば、構成員としてあまり緩やかな評価を言える感じではありません。ただ、見方を変えれば、私の意見ですが、出前講演については、実は累積で見ないと分からない部分があるのではないかと思います。毎年毎年の経営計画の評価については当該年度の実施回数で結構ですが、出前講演をやればやるほど市民等への定着性という観点からはニーズも減っていくということになるでしょう。そうしたことを考えると毎年毎年の実績のほかにも累積で見ることによって、出前講演が定着したような側面が見えるかもしれませんので、私からの意見としてコメントさせていただきます。

(構成員)

同じく出前講演で気になったことがあります。なぜ、幹部職員というふうに限定をするのか分かりま

せん。

小学校や幼稚園などに行く場合、幹部職員ですと年齢がかなり上となり年齢差が生じます。年齢が近いほど親しみがわくと思いますので、職員にも仕事を覚えてもらう必要もありますし、子供達にももっと水道を知ってもらうためにも、是非、若手職員にも小学校や幼稚園に行っていただきたいと思います。

(構成員)

座長から目標達成状況や今後の方向性について話がありましたので、私からもその部分につきまして一つ質問があります。13ページ資料4の下水の関係です。太陽光の設置予定場所が耐震性能を満たしていないことが判明したため延期したとありますが、それは土壌の問題なのか、どんな理由でやめたのかというところを今一度具体的に説明していただきたい、そして、その太陽光発電設備の設置箇所1箇所の予定が結果0箇所、これを「概ね良い状況とは言えない」と評価しています。0というのはそういうことでしょうか。勇気を持って「不十分な状況にある」と言っていると思います。そして今後の方向性の中で、きちんと実施すると言えればいいと思います。

私は、ここは局として表に出すときに色々苦しいかもしれませんが、勇気を持って「不十分な状況にある」と評価すべきではないかと思います。お世話になっている北九州市さんにこのようなことを申し上げて恐縮ですが、私の意見として述べさせていただきます。

(構成員)

検討会の役割はそういうところだと思いますので、そのとおりに言っていただけたらと思います。

(事務局)

幹部職員だけがPRを行っているかというところですが、出前講演に限っていえば幹部職員ですが、若手職員の取組みとしては、水源地交流ということで、水源地の小学校と門司区の海に面した小学校とで交流を行っています。その機会に若手職員が上下水道事業について学校で説明しています。

出前講演は原則、幹部職員が講演することになっていまして、水源地交流は中期経営計画の指標としては別の項目になります。水源地交流は年2回、それぞれの学校に行きます。

その他に、浄水場の見学や上下水道モニターなどにおいても、若手職員を活用しています。また、水わくわくフェスタにおいては3000人ほど来場されますので、この機会にも若手職員を積極的に活用しています。若手職員も年を重ねると住民と接する機会が増えてきますので、このような活動の場を大切にしたいと考えています。

(事務局)

太陽光発電については、言われるとおりの実績が0件というところで目標を達成出来ていません。これは太陽光発電を載せる土木構造物の強度が耐えられないと判明しましたので、今回、延期したものです。この土木構造物は浄化センターの拡張に伴い増設されたものです。今回、設置に際し詳細な検討を行った結果、耐震性能を満たしていないことが判明しました。今後、耐震診断を踏まえ、構造物の強度を含めて見直しをかけた上で、再度太陽光の設置について検討していきたいと考えています。

構成員の言われるとおり、1件のうち0件なので、勇気を持って「不十分な状況にある」と言われればそのとおりですが、太陽光発電の設置については、これまでの経過の中で、全体計画はある程度順調に進捗していますので、今回は、「概ね良い状況とは言えない」と評価させていただきました。

(事務局)

太陽光発電の補足です。土木構造物で反応タンクといって水を浄化する施設です。蓋の代わりに太陽光パネルを設置するもので、下水道界では初めて蓋の代わりに太陽光を屋根材として使用するという事で、国庫補助をいただき実施している事業です。どうしても、下の反応タンクの耐震性能が満たされないと上に設置できません。

それから設置件数ですが、平成22年度から順次太陽光を設置していきまして、現在、計画の22箇所のうち既に12箇所に設置しています。

今回、平成25年度については耐震性能を満たさないということで延期しましたが、計画全体をみて

「概ね良い状況とは言えない」と評価しました。単年度だけみますと出来ていませんが、先ほど構成員が言われたように単年度だけでなく、全体計画の累計も踏まえて評価させていただきました。

(構成員)

これは、全体計画の完成は何年度を目指しているのですか。

(事務局)

平成32年度を目指しています。

(構成員)

それには間に合うペースであるということでしょうか。

(事務局)

診断結果によっては、土木構造物に大規模な補修をしなければいけないということになると、費用も嵩みますので若干計画が延びる可能性もあるかと思えます。

(構成員)

そうであれば、今回は「概ね良い状況とは言えない」でも結構かと思えます。でも、耐震診断の結果、計画が延びるようであれば、「概ね良い状況とは言えない」という評価はいかなものかと思えます。

(事務局)

一応、今年度耐震診断を行いますので、その結果を見て、調整していきたいと思えます。

(構成員)

広報誌発行の件です。全戸配布とありますが、これはどのように配布されているのかとても不思議です。自治会に回されても、自治会に入っていない方も多数おられると思えますので、どのような配布をしているのかというのが1点です。

あと出前講演ですが、市内各所に市民センターが130箇所あります。各市民センターでは、春の講座、秋の講座が必ずあります。その講座に盛り込んでもらえれば、各区1箇所としても最低7回はできるのではないかと思います。

(構成員)

2つ目は提案ということで、1点目だけ確認をお願いします。

(事務局)

市民センターの件は承りました。

広報誌については、市政だよりの4月15日号に入れて配布しています。確かに言われるように自治会に入っていない方はどうしようもできないというのが現実にあります。また、市政だよりにだけでなく、先ほど申しました各種イベントにおいても広報誌を配布し、広く周知できるよう努めています。

◇議題3 主な事業の取組について事務局から説明

◆議題3 主な事業の取組に関する質疑応答

(構成員)

窓口の方で、配水管が破裂したとか、下水による道路の陥没が発生した場合、工事事務所は統合され

ているようですが、そこに直接連絡が入るのか、このコールセンターに入るのかというのが1点。

あと浸水対策です。財源のことが書いてありますが、今、国交省の概算要求が出されその中で、下水道浸水被害総合事業を拡充しようという話があります。今までは過去に浸水した実績を重点に補助されていましたが、内水浸水シミュレーションをすれば浸水被害がなくても補助対象になるという話がありますので、参考になればと思います。

(構成員)

2点目は提案ということで、1点目はいかがですか。

(事務局)

漏水等に関する問い合わせですが、基本的にはコールセンターに連絡が入っています。また、直接、東西の工事事務所に連絡が入る場合もあるようです。

(構成員)

名古屋市でもコールセンターで行っていますが、大雨が降った時に委託業者から職員に迅速に情報が伝わらなかったケースがありました。参考までに紹介させていただきます。

(構成員)

資料6の浸水対策です。ハード整備で雨水整備率を75%まで引き上げるという話ですが、一番下の5のところで整備率が平成32年度末で73%となっています。この2%の差ですが、75%というのは目標年度があるかどうか伺います。

(事務局)

まず、平成32年度の73%は、平成22年に策定した下水道ビジョンの中で目標水準として定めています。また、75%につきましては、現在、今後10年間の事業計画の洗い出しを始めたところですが、その中で平成35年度あたりを目途に75%に達するのではないかと見込んで業務を進めています。

(構成員)

ビジョンと今後の計画で、多少、根拠が別になっているということですね。

(事務局)

ビジョンは平成32年度が目標年次ですので、まずは、その時までには73%に引き上げる。それから75%はその次ということで考えています。

(構成員)

浸水のソフト事業の方がこれからとても重要になってくると思います。名古屋市で東海豪雨があって、そこでは60mm対応をしています。だんだん事業が進んでいくと今度はソフト面で住民の方がどれだけ理解していただけるかというのが非常に大きな課題となってきます。ここでは、土のうと書いてありますが、土のうを事前に配布するというのはとても大変なことだと思います。それでは市民の方で何ができるかということになると思います。

名古屋市ですと水のうを作ってくださいということをPRのイベントなどで周知しています。参考までに紹介させていただきます。

◆ 全般に関する質疑応答

(構成員)

収入を上げるために、以前、大口利用者が地下水等を使って、だんだん水道を利用しなくなったとい

うことで、料金体系などを変えて大口利用者にできるだけ水道を使用してもらおうという取組みだったと思います。その成果というのが、ここでは話題になっていませんが、大口利用者が地下水に逃げていないのかと水道に回帰してきたのか伺いたいと思います。

(事務局)

水道から地下水に転換した大口利用者は16事業者あると把握しています。そのうち5事業者は、水道に回帰してきましたが、依然として11事業者については地下水を使用しているという状況です。

この地下水をしようしている利用者也一部水道を使用しています。その水道使用量を監視し、使用量が徐々に増えてくるタイミングや地下水を揚水する機械や施設の更新時期などを見極めて、水道回帰への営業活動を行うこととしています。